

3 分析・考察

① 保護者アンケートより

- ・お子さんが喜んで登園しているとの回答は 51%と低く、そうでない園児の数が 6%とやや高い数値が見られる。
- ・園だよりや行事に関する手紙に対してもう少し努力を要するが 13%と高い数値が出ている。小学校との行事の日程調整で変更になることもあり、手紙の配布やお知らせが直前になったことが要因と考えられる。
- ・朝食を食べさせて登園させている割合が高くなってきたが、午後 9:00 までに寝かせている割合が 70%前後と低い数値が見られた。

② 自己評価から

- ・「教育課程・指導」に関して、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の活用方法は改善されてきた。絵本以外の教材、楽器などを計画的に活用することが今後も課題となっている。
- ・「保健・安全管理」はマニュアル等も整備し、適切な対応をとることが出来ている。職員間での迅速かつ正確な情報共有が求められる。また、日々の環境整備を丁寧に行っていけるよう工夫が必要。
- ・特別支援教育に関して、適切な計画や会議などの開催を行っているが、人員不足という課題をどのように改善していくのかが課題である。
- ・研修に関しては園内研修等を計画通りに行う事は出来た。また、内容について見直しを行う事で、より良い研修を行うことが出来た。
- ・地域との連携に関しては、コロナ禍が明けたことで地域の行事等への参加機会が増えた。今後はさらに地域との交流を広げていきたい。

③ 生活リズム・生活習慣

- ・朝食を毎日食べさせているが 90%近くあり、去年と比べて食事についての意識の変化が見られる。
- ・スマートフォン等の使用時間を決めている 19%、時間帯を決めている 7.5%と低い数値が見られ、情報機器の取り扱いについて家庭内の使用の仕方についてルールを決めている家庭の割合が少ない。

④ 学校関係者評価（評議員、学校関係者意見）

- ・公開保育を見学しました。大変すばらしい取り組み、あったかな取り組みだと感じました。
- ・こども園と小学校の連携が大変すばらしいと感じています。今後も大切にしてほしいと思います。

4 改善方針・改善策

① 基本的な生活習慣の定着

- ・げんキッズカードの活用や個人面談など、今までの取り組みを続けながら、クラス懇談会などの機会に保護者同士でも情報の交換ができる場を設け、保護者への啓発を行っていく。
- ・スマートフォン等の情報機器の扱い方についても家庭での実情を把握し、適切な扱い方を発信していく。

② 規範意識の育成

- ・共通の幼児理解を基に、丁寧な言葉使い、名前にさん付けを定着させていくなど、一人ひとりを大切にしたい関わり方を心掛け、温かな人間関係を築いていく。
- ・自分の持ち物や道具の整理整頓の仕方や、共用の遊具や用具などの適切な扱い方を知ることで、物を大切に扱おうとする態度を養っていく。
- ・あいさつ運動などを取り入れ、「おはようございます」「さようなら」など、基本的な挨拶を気持ちよく行おうとする態度を育成していく。

③ 話を聞き、話す意欲や態度の育成

- ・朝の会、帰りの会、全体集会、読み聞かせなど様々な場面で話を最後まで聞く態度を育てる。
- ・絵本コーナーの充実を通して、読みたい、話したいという意欲を育てていく。
- ・園児が聞きたくなるような話し方を心掛け、心を揺さぶるような保育をめざしていく。

④ 家庭との連携の強化

- ・保育参観や保育参加、ICT ソフトなどを活用した情報発信を通して、こども園の様子を保護者と共有していき、保護者を巻き込んで一緒に子育てをしていく環境を整えていく。
- ・地域の行事やPTA活動などにも積極的に参加することで、地域に根差したこども園を目指す。